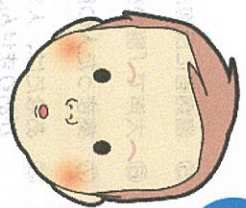


子どもの一時救命処置の手順

乳児 ▶ 1歳未満

小児 ▶ 1歳以上16歳未満

(目安としてはおよそ中学生までを含む)



乳児



小児

1歳未満

1歳以上16歳未満

目安としてはおよそ中学生までを含む

年齢

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16

心臓マッサージ (胸骨圧迫) と 人工呼吸

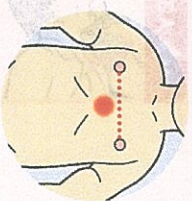
心肺蘇生は成人と同様、
心臓マッサージ(胸骨圧迫) 30回と
人工呼吸2回の組み合わせを絶え間なく続けます。

- 胸の厚みの約1/3沈む深さまで強く圧迫します。
- 成人と同様、人工呼吸ができる場合は、気道を確保し人工呼吸を2回行います。
- 胸骨圧迫30回と人工呼吸2回を交互に行います。



乳児(1歳未満)の場合

両乳房部を結ぶ線の少し足側を目安とする胸の真ん中を、
2本指で押します。



乳児(1歳未満の子ども)

- ① 反応を確認する
- ② 大声で叫び ～ 19番通報とAEDの手配～
- ③ 呼吸を見る = 心肺停止の確認
以上は成人と同じ
- ④ 胸骨圧迫を行う
片手の2本の指で、両乳房部を結ぶ線の少し足側に置き、胸の厚さの約1/3を目安として、十分に沈み込む程度に、強く、速く、絶え間なく圧迫する
- ⑤ 人工呼吸を行う
頭部を後屈させ、大きく開いた口で、口と鼻を一緒に密着させ、軽く胸が上がる程度まで息を吹き込む(口対口鼻人工呼吸)

ポイント 乳児の場合、呼吸が悪くなったことが原因で心肺停止に至ることが多いので、できる限り人工呼吸もあわせて心肺蘇生を行ってください



小児(1歳以上16歳未満)の場合

体格が大きければ、成人同様に両腕で胸骨圧迫を行ってもよい。



AEDの使い方

AEDの使用手順は、成人における手順と同様ですが、
小児用パッドや小児用モードがある場合、
未就学児には小児用パッド・小児用モードを
使用して下さい。



AEDの小児用パッド・小児用モード

ある時

傷病者が乳児を含めた
未就学児と推測される
ときに使用します。

ない時

成人用パッド、成人用モード
を使用して下さい。

※成人用パッドを用いて小児用モードを使用する場合、小児用パッドより大きいので、パッドが触れ合わないようして下さい。

保護者のみなさんへ

心肺蘇生の手順は正しく実施されることが理想ですが、全部思い出せなくても、思い出せたわすかの「何か」を実施することで救命率が改善します。「助けを呼ぶ」だけでも、「胸骨圧迫」だけでも、「人工呼吸」だけでもいいのです。最もよくないことは「何もしないこと」です。